

教育DX・教育データ利活用について



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

教育DXを支える基盤的ツールの整備・活用

令和6年度予算額（案）	9億円
（前年度予算額）	6億円）
令和5年度補正予算額	5億円



文部科学省

背景・課題

- 国全体で教育DXによる学びの環境を実現するには、教育データの利活用に必要な知見や成果を共有することができる**基盤的なツールを文部科学省が整備する必要**がある。
- また、基盤的なツールの活用により蓄積されたデータが効率的・効果的に活用されるためには、**教育データの相互運用性を確保するためのルールの整備、教育データの利活用を行う際の安全・安心の確保**、そして、**国や自治体によるデータ分析と分析に基づくアクションの実行**を並行して実践していくことが重要である。



事業内容

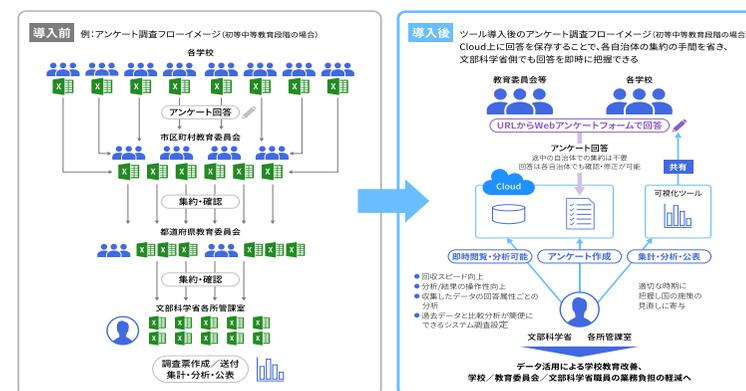
(1) 文部科学省CBTシステム（MEXCBT）の改善・活用推進（運用714百万円）（開発等 399百万円【令和5年度補正予算】）

- **文部科学省CBTシステム（MEXCBT：メクビット）を、希望する全国の児童生徒・学生等が、オンライン上で学習・アセスメントできる公的なCBTプラットフォーム**として提供し、デジタルならではの学びを実現。
※令和2年から開発を実施。令和5年8月時点、約25,000校、810万人が登録。
- **令和6年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問調査等において活用予定**。また、**令和7年度の教科調査の悉皆実施に向けて必要な機能の拡充**を実施。
- 地方自治体独自の学力調査等のCBT化について、令和5年度は約17自治体で実施予定。**令和6年度はさらなる量的拡大及び調査内容の質の向上**を図る。



(2) 文部科学省WEB調査システム（EduSurvey）の開発・活用促進（運用67百万円）（開発 48百万円【令和5年度補正予算】）

- 文部科学省から教育委員会や学校等を対象とした業務調査において、調査集計の迅速化、教育委員会等の負担軽減にも資するシステムを開発し、令和4年度から試行。
- 調査結果の自動集約や即時的な可視化等が可能なことから、**学校現場や教育委員会からも利活用のニーズが高い**。
- 令和5年度は、約80の調査を実施予定。**令和6年度は、調査実施者や回答者のニーズを踏まえた機能の改善を実施し、約120の調査を実施**予定。



(3) 教育データの利活用の推進（86百万円）

- **データの標準化等、教育データの分析・利活用の推進に向けた取組**や、web上の**学習コンテンツの充実・活用促進**や**デジタルバッジ（学習履歴のデジタル証明）**を活用した**ネットワークの構築**に関する調査研究を行い教育現場へのフィードバックや新たな知見の創出を図る。
※令和5年度補正予算において、**安全・安心の確保に向けた個人情報保護などの教育データ利活用にあたり留意すべき点の整理**、デジタル学習環境におけるソフトウェアのデータの利活用に必要なルール作り（「**学習eポータル標準モデル**」の改訂）等を実施。（60百万円【令和5年度補正予算】）

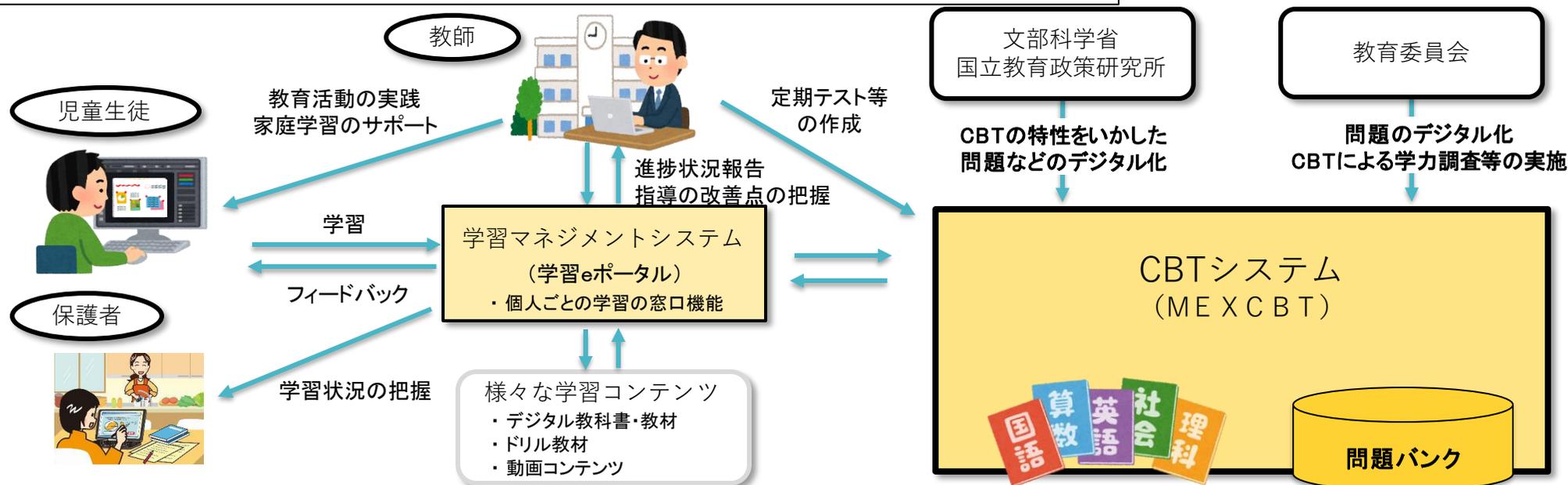
文部科学省CBTシステム（MEXCBT：メクビット）について

- 小・中・高等学校等の子供の学びの保障の観点から、**児童生徒が学校や家庭において、学習やアセスメントができるCBTシステム**
- 文部科学省が開発（事業者連合体のコンソーシアムに委託）
- 国や地方自治体等の公的機関等が作成した問題約4万問を活用可能
- 現在、公立小学校の80%超、公立中学校のほぼ全てが登録（ほぼ全ての自治体、約2.6万校、児童生徒等約820万人が登録）【令和5年11月現在】
- 「GIGAスクール構想」により実現する「**1人1台端末**」を活用した「**デジタルならではの学び**」を実現

MEXT + CBT
文部科学省 Computer Based Testing



私立小学校：約18%
私立中学校：約40%
【令和5年11月現在】

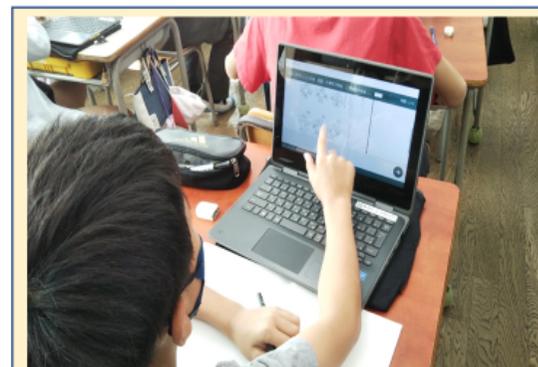


※ CBT : Computer Based Testing

福岡県の小郡市立三国小学校 教頭 和田 様から、MEXCBTの利活用についてお話を伺いました。
 三国小学校は、授業のまとめ・単元末やテストが早く終わった児童の空いた時間、また長期休業中や休日の家庭学習を中心としてMEXCBTを利活用され、児童一人あたりの累計解答数も多くなっています。活用をした児童や先生方の様子、また今後の展開について、主にお話を伺いました。

■■■学校HPのURL <http://www.ogori-mii.ed.jp/~mikuni-e/>■■■

<p>活用の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに、MEXCBTを児童や教職員がいつでも活用できるように設定を行い、職員全体で使い方等の研修を行った。 ・活用場面としては、「授業のまとめ・単元末やテスト等が早く終わった児童の空いた時間」や、「長期休業中や休日に家庭学習」で、習熟度に応じた問題を解いている。 (例) 5年生算数「小数のわり算」の最後に、小数のたし算やひき算、かけ算も一緒に確認することで、計算の違いを明確にし、習熟を図る。
<p>子どもたちの反応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを使って、ドリルをする(問題を解く)のは楽しい。また、自分のペースで問題解決できるため、じっくりと問題に取り組むことができる。 ・様々な問題があるため、自分の習熟度に応じた問題選択ができ、自己調整しながら学習を進めることができる。
<p>先生の反応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自動採点機能がついているため、児童自ら主体的に学習を進めることができる他、授業の内容やテスト等が早く終わった場合でも、教員の負担なく自分で復習等ができる。 ・いつでも基礎基本問題、応用活用問題等を児童が解くことができるため、基礎基本の定着を図ったり、思考力や応用力等を身に付けたりするための学習活動を保障することができる。
<p>今後の展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、授業のまとめや単元末、さらには長期休業中や休日での家庭学習に活用していきたい。 ・MEXCBTの効果的な活用方法やよさについて、学校全体、市全体に広げて共有していき、児童の主体的で個別最適な学びにもつなげていきたい。



授業のまとめでの活用



令和6年2月現在、**31の活用事例**を文部科学省HPに掲載しています。活用事例は毎月更新しています。



○ 活用事例は文部科学省HP「文部科学省CBTシステム(MEXCBT:メクビット)について」に掲載
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00001.html

○ 私立学校での活用事例はこちら↓
https://www.mext.go.jp/content/20220914-mxt_syoto01_000013393_001.pdf

